

附

録

に従事するが如き最も不當にして無益なりと斷言せざるを得き而して彼の業卒り學成りて洋行するものゝ如きも兩三年を彼の土に費すゆふ即ち足れり何ぞ優々歳日を送りて洋臭に感染し三千餘萬同胞の膏血を濫費するを要せんや

今又更らば社會の弊より論斷して西洋に渡航し講學に従事するの不當なるを辨明せざる可らば案するに學問と喧雜に破れ靜肅に成る都會の學問の講究は不適當にして田舎の之は適當あるは今殊々しく論するまでもなし夫れ西洋と天下の都會にして東洋と天下の田舎あり故に東洋に學ばずして西洋に學ばんと欲するものと田舎に學ばずして都會に學ばんと欲する者あり靜肅の場所を撰んで講學を爲さず殊更らば喧雜の場所に趁て講學を爲さんと欲する者あり夫れ今の時又當り地方の子弟各々先を争ふて東京に遊學する所以のものは地

附

録

方に善良の學校なく高等の學校無きが爲ふりと雖もまきが爲め年々歳々父兄をして無益の資金を擲しめ子弟をして無益の日子を費せしむるまど殆んど幾何あるを謙らば無益の資金を擲らば無益の日子を費すまど尙や忍ぶべしまきが爲ふ生徒をば遊惰放蕩に陥らしむるの弊は忍ぶ可らず惟だに地方の生徒をして東京に留學せしむるの危険や實は大有り然りと雖も之をして永く齊東の野人ならまむると其父兄の實は忍ぶ能はざる所こゝを以て敢て危険を犯して之を都下に留學せしむることを爲す今眼を轉じて天下の田舎たる東京を觀るに日本の田舎たる各地方の如き善良の學校なきもならず高等の學校なきもならず我帝國大學校の如き其教師なる者の學力は設令歐米の大家に比して多少の優劣無きにならずと爲すも學制の完美に至りては敢て西洋に諸校に劣らざるなり否や西洋の諸校に優るものあるなり我

附

録

日本學生脩學の便否よりして之を觀れば遙るゝに西洋諸校に優ることを決して疑を容れざるなり然らば則ち何を苦んで遠く海外に子弟を派遣し講學を爲さしむるをせん嗚呼倫敦橋上の月危哉巴理城邊の花又危哉夫を大都會にて洞窟より大城市には陥井あり豈に東京の都下にのみ書生墮落の淵あらんや而して父兄の晏如たる所以のもの之を識らざるが爲に之を今に當り一度は海に航して泰西に趁くあれは夫れ洞窟に隠れざる者も學者あり夫れ陥井に墮落せる者亦學者なり父兄豈愚ならずや日本人民も亦愚ならずや
余は今更らば他の論點より外國に渡航して講學するの不便を説かむ蓋し思ふに外國に趁きて學問を脩めんと欲せば勢ひ數年の星霜を彼土に費さざる可らざる果して數年の星霜を彼土に費さむか日々國情に疎なるに至るは免る可らざるの數なるべし夫れ學問と實際と相俟

附

録

ちて離れざるを論ずるの要ならず學問は實際に徴して彌よ明らか實際は學問に基きて彌よ通じ左れば日本に止りて學問を脩むるものは始終己れの學び得ざる學術と實際に應用するの便ありて隨がつて其學問を明らるゝ實際に通曉するの得たるも西洋に趁きて講學を爲すものは國情に迂濶にして其學問を日本の實勢に應用する能はず偶まふれを西洋社會の實勢に適用して以て速断し歸朝の後學問終る無用と歸すると往々よして之を顧みるも我國學生を海外に派遣して留學せしむると歳月多きを加ふと雖も一旦歸朝の後に至り當り閑散の一學士に過ぎざるを以て毫末の實効を社會に現はさる人をして失望せしむる者或は之無きを知らざるは要するに此原因に由るものなるべし且夫れ永く西洋に留學するものは筆舌の二者に於て失ふ所無きを保つべき蟹行の文は固より和漢合併の我が文章には優る

べし然れども之に依らずんば我ら社會は動らざるあり英佛の語は固より日本語にて過ぎざる可し然れども之に依らざれば我が社會は感ぜざるなり彼の海外に留學するの人は久しく日本の語を話さず久しく日本の文を草せば故に通常の談話往復の文通には固より妨ぐるべしと仰らざるも四起と驚くすの雄辨と鬼神を感せしむるの文章とは其能くする所も仰らざるなきを保する能はせしに於ては洋行者流往々若隱居をみれ事と閑散を好んで實務を避くるの事を行はざる蓋し已を得ざるも出でざるなり

講學を目的として洋行するの非なること以上論辨したるが如し洋行と研磨の爲に爲さざる可らざる觀察の爲に爲さざる可らざる若夫れ、人研磨の爲先は洋行を爲さむと欲せむなるべく校舍に入るを避け學問の種類もよりて異なれども先輩の講義と自家の獨脩とによりて以て

其學問を研く可しこれ蓋し學舎の學制の爲お制せられ無用の學科に日月を消費せざらんが爲なり彼の學位の如きは之を得ざるも固より可らざる洋行の目的は學問を研ぐる爲のみ學位を購ふが爲にあらざる我國の要する所の學位ある人よ仰らず學識ある人あればなり然而して彼の觀察を旨として西洋に赴く者と豫め準備を要すること一ふして足らざる可きも今其項目の二三を擧ぐれば左の如し

- 一金銀を懐よするを要す
- 一歴史を讀むを要す
- 一語學を脩むるを要す

夫を觀察を目的として西洋に赴くもの之何の觀察を爲さむとするか蓋し其社會を觀察せんとするなるべし社會と何か下宿屋の二階か學校の塾部屋か若し社會おして下宿屋の二階あらす學校の塾部屋あらす所謂「サイチ」なるものあらしめば金銀を擲つにあらざんと入

るを得ざるなり毎歳數万金否數十万金を消費するおぼらされば入るを得ざるなり金多うらされば好紹介を得る可なり好紹介を得る莫くんバ具ラッドストオンの鼻息焉んぞ窺ふを得ん眉スマルクノ尊容焉んぞ遙拜とるを得んや且夫れ社會の現況を觀察し以て得る所おらむと欲せむ勢ひ其過去を識らざる可らず蓋し過去を識らざりて現在と觀る人は原因を探ぐらすして徒らに結果に着目するの人なり夫を倫敦を觀るの目を以て羅馬を觀巴理を觀るの眼を以て亞典を觀るが如きおらば設令百たび洋に航するも何の益おらむや而して彼の語に通せざる人の如き素と交際の機關を欠く故に其觀察する所は殿堂の魏々たる車馬の絡繹たるに過ぎず其毛頭の利益なきや論を俟たざるなり之を要するに右に掲げたる三條件は所謂必要の條件にして之を備へざる者軍る足を擧げざるを宜しと然而してよの三條件を備

ふる者にして尙ほ一層の便利を得んとを希圖するおらば左の二項を豫備す可きなり

- 一 西洋先輩の旅日記を讀むべし
- 一 西洋大家の詩文小説等を讀むべし

惟ふに西洋の諸大家遊歴を爲るに當りては旅日記を草して後世に残したり而してみれらの旅日記は概ね諸大家巨大の眼光を以て觀察したる結果なれば后人の其土地に遊歴する者之に依りて悟る所多きや識るべし且夫れ西洋の社會お在りて詩文小説お通せざるものは殆んど談論の種子なれお苦しまざるを得ざるなり彼の男子と共お政治を論ずべし共お學問を上下おべし彼の勢力ある女子を奈何ん嗚呼彌る須ペンチャアは識らすもがな辨タム固ントは識らすもがな天ニツマ馬イロンは識らざる可らず奴イケンス佐カレトを讀まざる可らず

洋行の事に關して論ず可成事項は以上述べざるものに止まらざと雖も既に數号に涉りて讀者の退屈を來たしたるをば更に他日を俟ちて拾遺するところ爲さむ

(完)

本書を再版するの以前書を桑港の知友に寄せ又と歸朝の人々を付て彼地日本人の情況を尋ねたるも孰れも幾んど同一なるより其中の最も可ある者一を撰むととあせり則ち左ふ在桑港一友人よりの來狀一篇を記して讀者の賢覽に供す

纂譯者記

前略今度貴著米國行獨案内を再版せらるゝに付き同書に記せし事柄の變りたる者及び其中に記載なき事等を報道すべき旨御申越ふ付御

答仕候

當桑港在留日本人の現況と人員の増したる外該書に記るをさる所と格別變はりざる靡も無之只だ斯く申すに於ては折角の御尋甲斐もなしと存じ候まゝ左ふ可成必要なり新規なりと思へるゝ事のみ集めて答辭と致し候

本年七月頃ふと在留日本人の數殆んど百人も及びたをとも其生活の有様は従前と異なるなく其中資本を有して商賣を爲し若くと學生となつて學校に入学しとる者の如きと僅々四五人ふて其他商社杯に住込み Salesman (賣子) とありて可なり金の取るもの數十人の上ふ出で仕候去をば概數八百人の中相應の面目を保つものと八分の一程ふて其餘の種族は Boy (小使) となり Waiter (給事人) となり Cook (料理人) となり若くと日雇水夫となり見る影もなき生活を送るものに御座候

其人々たる多くと書生輩にして皆な學問がいたさふはるゝ來りし人なきども浮世は中々お云ふとをさうを多くは其目的の十分一をもえとげうねて些細の究學お大切なる壯年の月日を儻へおして其の日くを空過すると實お嘆息の至りお御座候畢竟するに確る精算もなくワン、セントの小遣をも携へお前後無勘辨お渡來しる結果おて渡來者の中に脩學又と觀察等單一の目的を有して來るものは少なふして其他お一種言ふべからざる目的よりするもの多しとす、則ち男子三年の大役を免おれんとを目的の主頃として船賃の才覺を得るや否や突飛此お渡來したるもの多く固より確る精算もなく堅忍不拔の志節もなき輩おとバ渡來後途世の六か敷に閉口し詮なき後悔をあるものある、其中おの奉公口を待ずして領事館に哀願するものもなれお非ず候且つ當時と先頃とちがひ八百人餘の人敷それく、諸方の雇

ひに付きをるとなれば善き奉公口の大概塞がりをりて望まし死所の容易おふつつあり難く候故只だ仕事の難易給料の多寡をうまはず奉公さへすればよろしといふおれば二週間も遊べば見當るとおるべく其間滞在の用意金として四五十弗の金は是非共持ち來ると肝要お候御承知の通り近來日本より郵船の到着おれば毎船十人内至廿人の日本人來らざるとおく多くは血氣盛んの書生さんさちおして郷關を出づるの心おは謹勉忍堪の文字を刻みたるべく學若不成死不還の吟をなしる人もおるべたなれども人の心情は境遇によつて變はるゝ其常おして咽喉元過れば熱さを忘るの謔にもれお數月當港の繁華お生息して都會の風俗に慣染し漸々怠惰の本色を現として囊中錢なれお Coffee house、此コッフィー店と申すは日本の揚弓店又と横濱野毛山の掛茶屋様のものにして年若の美女共粉粧して客を待つ所に候にいり

17/8/54

録

附

ちげ或ひと様々の偽文明を粧ひい始終人の奴隷ふるを甘んぢるものなきお非を吁區々ふる望みの爲はふ萬里の異城に下劣の生を送つて榮達の道なく夢の間にすゝ、有用の星霜をすすすと長大息の限りお御座候但し多き書生輩の中ふと志業共お堅く肢体の勞苦を以て一身の資給をつくり究學多年近々大學校を卒業とる者なれお非されども此等と僅々二三名に過ぎず候一部の善を見て用心を怠るよりは大部の惡を聞いて戒心に過ぐる方がよろしけれお斯くは申上るまゝに候(中略)勿々

千八百八十六年八月二日

富田大和田詞兄足下

米國獨案内並桑港事情附録終

横濱改印社の廣告

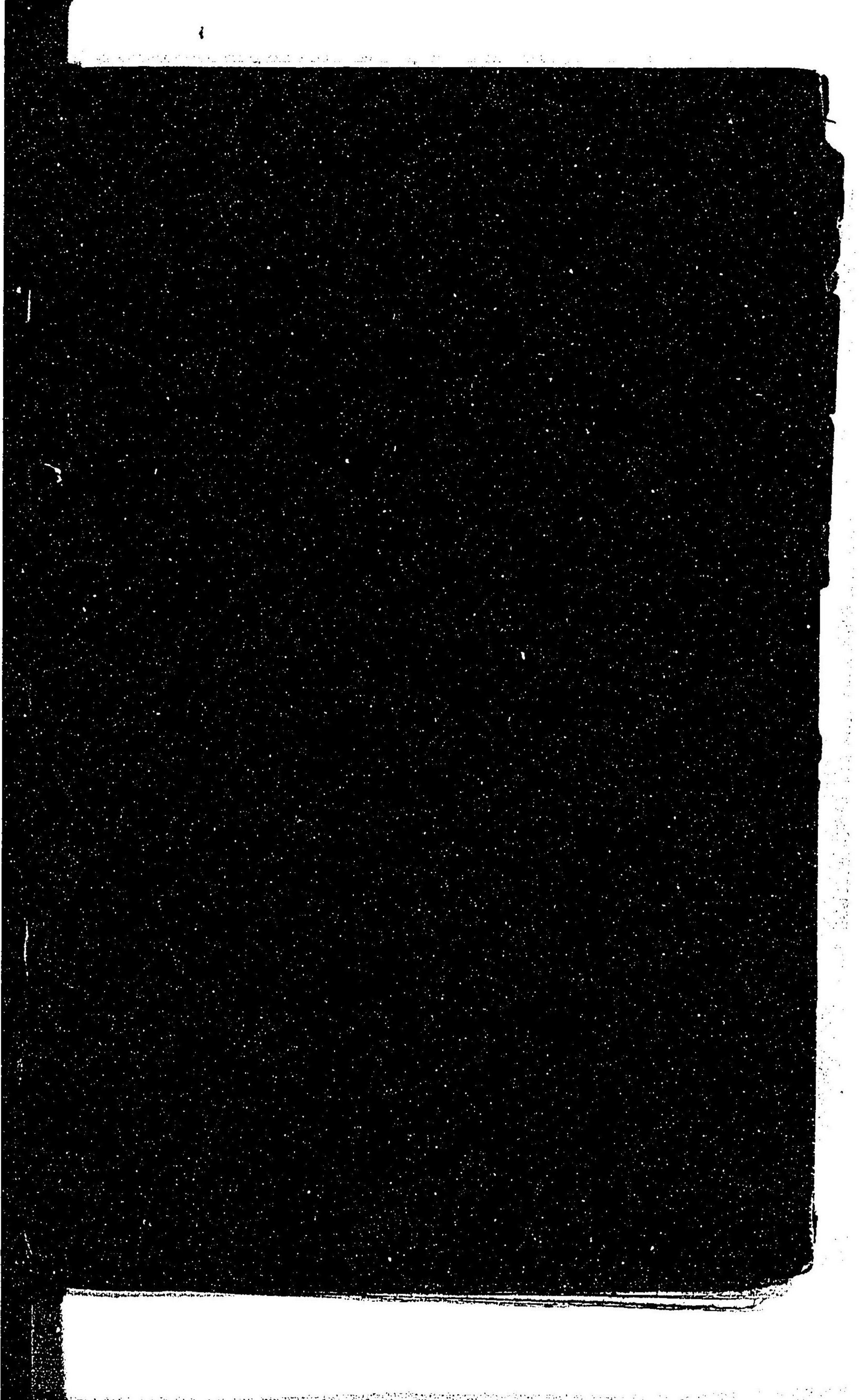
- 横文 廣告類
- 和文 廣告類
- 諸 札 紙 色合セ摺リ物類
- 名 刺 類
- ゴム判 印 肉 朱紫黒赤青萌黄色
- 字 寫 器 字寫器用インキ
- プリキ 並漆器類 押捺ノゴム印

弊社開業以來四方の諸君より数々の御注文にて社中一同の幸福之に過ぎず斯く印刷業の盛んなると全く我國の進みし
 物と存候依て更に弊社に於て前記の事業を管み務めて西洋風に倣ひ誤文脱字の弊なき様ふ念の上に念を入れて精々勉
 強一意に諸君の御便利を計り可申ふ付煩々御注文を乞ふ尤もゴム印判の儀ハ先年より製造致し來り候處近來に至り大
 に江湖諸君の賢賞を蒙り益盛大に相成り候間爾來ハ一層注意の上右御需用に應ずべく又寫字器の儀ハ俗にコンニヤク
 判と申して速成一方の者なれど御急ぎの印刷等は至極御便利に付澤山御注文を蒙り度且つ前記事業中の印肉及インキ
 の儀も各進販賣仕候間多少共續々御注文の程伏して願ひ奉る

横濱本町六丁目八十三番地

改印社
春日喜藏
大貴安吉

26
87
145



26

145

026945-000-3

26-145

米国行独案内

デイスターネル／著
富田 源太郎

大和田 彌吉／訳

M19

ADG-0068

